

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：10101

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2015

課題番号：26570001

研究課題名(和文) ドイツ語圏等における新聞制度成立の背景に関する研究

研究課題名(英文) research on the conditions of the emergence of newspaper in German speaking area and the Netherlands

研究代表者

江口 豊 (Eguchi, Yutaka)

北海道大学・メディア・コミュニケーション研究院・教授

研究者番号：70203627

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円

研究成果の概要(和文)：研究目的は、(1)新聞成立の背景となった要件の再検証、(2)新聞の先駆けとなった16世紀の手書き通信と新聞成立との関連の検討、(3)新聞が神聖ローマ帝国から隣国などへ伝わった状況を確認することである。(1)については、印刷業の状況、ニュースの運搬経路となった郵便制度、印刷物の取締制度などについて調査した。(2)手書きの通信・ニュースが16世紀後半イタリアから伝わり、職業的な書き手が通信・ニュースを販売する状況が印刷新聞の重要な先駆けとなった点をフッガー通信の最新研究などを参考に確認した。(3)30年戦争などを背景に切実な情報を求める状況が隣国オランダに早期に新聞が普及した原因である。

研究成果の概要(英文)：The three aims of the research project are (1) to rethink the conditions for the emergence of the newspaper, (2) to consider the relationship between the so called handwritten reports and the printed newspaper and (3) to describe the distribution of the newspaper into the Netherlands. Under the point (1) the post and city courier system, the circumstances of the print industry and the supervise system in the Holy Roman Empire were paid close attention. (2) The handwritten reports were born in North Italy and spread in Germany and the beginning of the news market by the professional reporters gave a basis for the print newspaper. That is the consequence of researches recently about the Fuggerzeitungen. The distribution of newspaper in the first half of the 16th. Century was determined by the crises of that time, for example the thirty-years-war.

研究分野：新聞成立史

キーワード：新聞成立史 神聖ローマ帝国 オランダ

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の出発点

研究開始当初の出発点となった疑問は、なぜ新聞が17世紀初頭のヨーロッパにおいて誕生したのか、なぜ日本を含め他の地域ではマスメディアとしての新聞が誕生しなかったか、という点である。その背後には、近代化というプロセスの背後に公共コミュニケーションの拡大と深化とがあるのではという漠然とした想定があるためである。そのために新聞の定義で問題にされる定期性、(題材の)非限定性、公共性、即時性、継続性、組織での制作などの諸要件に照らして、ドイツ語圏などでの新聞制度成立・拡散のメカニズムを検討することが必要となる。また新聞制度の発生・拡散・量的拡大に伴い、新聞の取り上げる題材の非限定性について、とくに新聞の先駆形態との関連の検証もすべきものと仮説として想定した。こうした問題設定のきっかけとなったのは、17世紀ドイツ語圏に於ける新聞の成立と、その後のスイスでの新聞の展開について研究を進めてきたことにある。その過程で、なぜ短期間で新聞がヨーロッパに普及したのか、あるいは近代的な新聞の萌芽がなぜヨーロッパで誕生したのかを改めて問うことの必要性を強く感じたためである。

(2) 先行研究

新聞以前の非印刷メディア・印刷メディア事象

印刷されたもので不特定多数の読者に向けた最近の情報という点では、すでに1455年の『トルコ人暦(Türkenkalender)』が先行した。これはオスマントルコがコンスタンティノープルをはじめとするヨーロッパへ進出したため、それに危機感をもったローマ教皇が暦の形で十字軍結成と参加を呼びかける内容となっている。その後、複数の形態をもつビラ類(Einblattdruck, Flugblatt, Neue Zeitung)にはすでに即時性や題材の普遍性(この点は検閲の関係で19世紀まで十全ではないものの)、公共性(対価さえ支払えば誰でも購入できること)は満たしていた。交通網の整備と15世紀末から16世紀にかけて確立した郵便制度に支えられて、私信への添え書きから手書き通信(geschriebene Zeitung)というものが北イタリアで発生し、ドイツ語圏を含むヨーロッパ全体へ広まった。例えば一週間に一度というようなりズムで郵便が運営されたため、最低限一定の時間を置かなければ発行するニュース素材が確保できないという定期性の前提が確認できる。定期性は半年に一度開催される見本市に合わせて発行された見本市通信(Meßrelation: 現存する最古の刊行例は1583年)にも当てはまる。これは半年間に起こった重要な出来事を記して見本市に合わせて販売されたものである。定期性そのものを体現した印刷媒体も生じていた。手書き

通信も見本市通信も印刷というプロセスを経るか否かは別に、組織的な制作の原初形態も認められる。こうした諸点が先行研究で確認されている。

初期の新聞成立と普及

1605年に現在のフランス領ストラスブール市(当時は神聖ローマ帝国領土でドイツ語使用地域であった)で史上初の印刷形態で、定期的に発行された新聞(当初は週刊)が生まれる。Relation紙と略称されるこの新聞誕生の4年後にはAvisoと呼ばれる第二の印刷新聞が北ドイツのヴォルフエンビュッテルで成立する。こうした普及と拡散の動きは1610年代以降加速し、現存する資料に依るだけでも、1630年代までで最低20紙前後にのぼる。ドイツはヨーロッパでも屈指の新聞大国として先行するのである。一方、新聞制度は同じ17世紀前半の50年間のうちに多くのヨーロッパ諸国にも広まったことが確認されている。

先行研究での問題点

こうした研究状況のなかで1609年ほぼ一年分の資料が現存する新聞二紙に関しては、当該年次の紙面一年分についてのみ、その言語上の特性分析、題材の分析(Welke/Wilke2008)などが実施されている。ただし、この二紙は1610年以降に関しては一次資料が散逸・喪失していることもあり、体系的に分析対象とされていない。いわば新聞のスタートの点に研究の関心が過度に集中してきた感がある。

新聞成立との関連で印刷業、郵便制度、検閲などの監督制度が問題となることについて、先行研究の詳しい検証が必要であった。

また、ドイツ語圏以外に新聞制度が拡散についてとくに取り上げる研究はなかった。そのときに、新聞成立の前段階を構成するいくつかの要件が満たされているのかという検証が必要となるのは言うまでもない。

すでにイギリスにおける大衆ニュースの題材分析の結果(芝田2000)として挙げられているものには、「裁判所の判決、殺人等の重罪事件、奇跡・不思議・天変地異、怪物、魔法、伝染病、神の行い、スポーツニュース(賭けの対象になる危険な旅行やアーチェリー大会)など」があるが、これ自体も同時代のドイツ語圏での報道の題材とは大きくずれるものであるが、こうした点が国によって左右されるものか否かは明らかではなかった。

(3) 日本国内の研究状況

日本では残念ながら、ヨーロッパでの新聞の発祥について詳細な研究が存在しない。新聞の歴史研究という枠内では、明治期以降を中心とする日本新聞紙の研究、江戸時代の瓦版を調査した研究があり、海外の新聞史で公刊されたものは、英米について取り上げたものが散見される程度にとどまっている。本来の新聞成立である神聖ローマ帝国の事例が

詳細に論じられたものは存在しない。

参考文献

Welke/Wilke(2008) 400Jahre Zeitung.
芝田(2000)新聞の社会史.

2. 研究の目的

上記の研究背景などを踏まえて、研究目的は以下の四点である。

- (1)ヨーロッパで新聞が発生するために改めて必要な要件を確認し、精査すること
- (2)ドイツ語圏およびオランダでの新聞の拡散・普及の実態を調査すること
- (3)新聞の普及・拡大にともなう報道内容への影響の有無について調査すること
- (4)日本国内でほとんど論じられてこなかったドイツ語圏での新聞成立事情をできるだけ詳細に紹介し、最新の研究状況を検討すること

二年間の研究期間内に明らかにすることとして目指したのは、とりわけ 17 世紀の新聞の一次資料を調査することにより、題材の普遍性成立の問題を検討することであった。とりわけ史上初の新聞といわれる Aviso 紙(ドイツ、ヴォルフエンビュッテル市)と Relation 紙(現フランス、シュトラスプール市)がすでに分析されているが、1609 年の一年分に限定されたものであり、1610 年以降の新聞拡大を調査することで時間軸上での展開し、その後どのような推移を展開するのかをドイツ語圏各地の新聞(17 世紀全体でのべ約 200 の新聞、約 2 万部の新聞資料が現存するとされている)やオランダ語新聞との比較を含め、確認することであった。合わせて、当時の郵便制度や印刷業の実情について先行文献の調査を進め、新聞確立と拡散の素地を検証することも意図した。新聞の地理的な比較展開を検討し、とくに、新聞が具体的に単一の都市で発生したのか、複数都市で同時発生したのかに関して、印刷、交通・郵便、統治体制などから仮説を提示することを検討した。そうした意味でオランダ語新聞との比較検討も新たな試みとして組み込んだ。最初のオランダ語での新聞が 1618 年に確認されているが、オランダについては、一部の新聞の先駆形態の存在や地理的な近さ、言語や政治体制の相違など、ドイツとの比較で等質と見なせる要件とそうでないものが混在しており、比較検討に値する対象であると考えた。

メディア内容を規定する要因についても研究目的として意識したものである。メディア内容を規定する要因は、畢竟読者たるオーディエンスの関心と合致する社会・文化的背景、メディアを取り巻く政治・経済環境などとされてきた。こうした点は例えば日本の瓦版が、地震・風水害などの災害、幕末・維新期の変動に関する事件、祭礼・歌舞伎興行など種々の番付、珍事奇談などという独特の題材分布を示す研究を見るまでもなく、ドイツ

語圏以外との比較、対象の検討がもたらす新たな知見が期待できると考えた。

本研究の学術的特色として以下の点も考慮した。本来自由な報道の先進地としてイメージされるイギリスやフランスではなく、なぜ資本主義近代の後発国であるドイツ語圏で最初の新聞が誕生したのかという点である。本研究では、検閲体制の特性、印刷業の起源と拡散、宗教的状况なども踏まえながら検討・考察を進めた。

またメディア史論の枠組みの中で新聞成立と拡散についても検討することも目的とした

3. 研究の方法

具体的な研究方法としては、

- (1) 新聞成立史に関わる先行研究の文献調査とその内容検討
- (2) 17 世紀ドイツ語圏新聞。オランダ語新聞の一次資料の検証によるニュース題材の分析作業
- (3) プレーメン大学活字メディア歴史研究所 (Institut für Deutsche Presseforschung) のホルガー・ベーニング教授との研究協議を実施した。

(1) 先行研究に関しては、部分項目ごとにドイツ語圏に膨大な蓄積があるが、とくに 2000 年以降画期的な著作が著されており、そうした新しい研究を中心的に取り上げて、検討した。

(2) について、プレーメン大学図書館のマイクロフィルムには 17 世紀のドイツ語圏各地の新聞約 80 種が所蔵され、利用可能である。17 世紀オランダ語新聞の一次資料に関しては、ハーグ王立図書館での調査となるが、原則的に H P での検索や先行研究の検証と活用を進めた。

(3) ドイツへの出張機会を利用し、17 世紀当時の印刷業の現状に関して、併せてマイントのゲーテンベルク博物館でも調査を行った。同時並行で、16 世紀、17 世紀における交通・郵便事情に関してニュルンベルクやアウクスブルクの関連領域の博物館等も検証し、参考にすることができた。プレーメン大学のベーニング教授との研究協議では、研究領域全般に関わる新たな先行研究だけでなく、北ドイツに関する事例研究の紹介を受けることもできた。

また、新聞の先駆形態とみなされる印刷物および手書き通信等に関する資料も現地でも新たに入手できた。

4. 研究成果

研究成果については、公刊された 4 本の論文と現在刊行準備中の論文の内容に添って説明する。

- (1) 「活版印刷術の展開と新聞成立との関係について」『メディア・コミュニケーション研究』第 67 号、1-21. 所収、

近代的な意味の新聞としては印刷されたものに限定される。そこで 15 世紀半ばに発明されたグーテンベルクの聖書印刷以降 17 世紀に至る印刷業の実態について検討した。とりわけ、印刷術の普及による過当競争の結果、初期の印刷業が享受した利益率の高さが消滅し、一部の中規模、大規模印刷業者を除いて印刷機の稼働を維持するなどの経済的理由が新聞印刷を促した可能性があることを考察した。

(2) 「駅逓制度と新聞成立の関連について」『メディア・コミュニケーション研究』第 68 号, 57-77. 所収、2015 年 3 月刊行。

新聞成立のためには、記事となるニュースが前提として必要であり、印刷術の発明から新聞が誕生するまでのほぼ 150 年間という時間差は、Behringer が最初にタクシス郵便制度の確率の重要性を指摘することで議論が始まった。情報が伝達するためのインフラストラクチャーとしては、タクシス郵便がとくに神聖ローマ帝国内を中心とした遠距離間の情報伝達に利用されたが、同時代のさまざまな飛脚制度も存在したが、時間的経過とともにどのように地理的に新聞が展開したのかという全体像を示すのは困難であるが、新聞がドイツ語圏内で拡散した様子と重ね合わせる試みを示した。

(3) 「新聞成立期における印刷監督制度について」『国際広報メディア・観光ジャーナル』第 22 号, 95-112. 所収、2016 年 3 月刊行。

17 世紀はじめの印刷メディアとしての新聞が、現在のように自由にすべてについて報道できたわけではない。印刷物などについてはそれ以前から検閲に代表される制限が加えられていた。この点が新聞成立に関わることは、英仏など他国で郵便制度は存在したものの、新聞が生まれなかった原因とも考えられる。先行研究を辿りながら、印刷物の監督に関わる諸制度を確認するとともに、法制度などの運用の実態についても検討した。全体として浮かび上がったのは神聖ローマ帝国の特殊な二重統治制度や民間運営であった郵便制度などが新聞というメディアを許容する余地をもたらしたことである。

(4) 「オランダにおける新聞成立と普及、その特性について」『メディア・コミュニケーション研究』第 69 号, 117-127. 所収、2016 年 3 月刊行。

日本ではヨーロッパ主要国の動静などについては比較的詳細に論じられることが多いが、周辺の小国家については歴史的考察からも外されることが多い。オランダもそうした国家の一つであるが、ドイツで 1605 年に発生した新聞が、他国に先駆けてすでに 1618 年にはアムステルダムで刊行されたことが判明している。なぜオランダでは早期に新聞を取り入れたのかについて先行研究に基づいて検討した。当時の宗教対立も背景とした戦争状態や海外貿易を巡る争いなど、情報に対する需要が切実であったこと、裏返すと情

報の重要性を認識していたことが究極的には新聞制度の導入を早めたと考えられる。

(5) フッガー通信について

新聞が印刷される以前には、当然ながら手書きの書簡などで情報が交わされていた。16 世紀から 17 世紀始めまでに買わされた通信類を当時の豪商フッガーが発信者としても受信者としても記録・収集していたことが分かっている。この刊行予定の論文では、膨大な手書き通信のコレクションとして最大のフッガー通信とそれに付随する事象について、先行研究も踏まえて検討した。16 世紀という社会発展期が示す現代社会との相違に規定されつつも、当時の公共コミュニケーションのあり方が徐々に明らかにされている。コレクションの主体たるフッガー家の構成員が果たした情報受信者のみならず情報発信者としての重大な役割や貢献を、コミュニケーション史理論の枠組みのなかで考察した。

全体として、ドイツ語圏での新聞制度成立に関して相当程度の問題を整理・確認し、日本語で紹介することができた。新聞成立の要因として、印刷業の伝播のみならず印刷業の経済的状況という要因を確認できたこと、郵便制度や都市飛脚などのインフラ制度が予想外に密度をましていた状況から、当初想定していた地理的な新聞制度の伝播パターンという関連性をもたないこと、オランダが置かれた政治状況が 30 年戦争を控えたドイツと異なる特長な点はわずかであり、いわば新聞を誘発したこと、手書き通信の研究を通じて、新聞ニュースの素材には一貫した等質性があることなどが確認できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計 4 件)

1 江口 豊 (単著)「オランダにおける新聞成立と普及、その特性について」『メディア・コミュニケーション研究』第 69 号, 117-127. 所収、2016 年 3 月刊行。

* 所属研究機関における電子形式での掲載：
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/61066/1/05_Eguchi.pdf

2 江口 豊 (単著)「新聞成立期における印刷監督制度について」『国際広報メディア・観光ジャーナル』第 22 号, 95-112. 所収、2016 年 3 月刊行。

* 所属研究機関における電子形式での掲載：
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/61127/1/095-112Eguchi.pdf>

3 江口 豊 (単著)「活版印刷術の展開と

新聞成立との関係について」『メディア・コミュニケーション研究』第 67 号, 1-21. 所収、2015 年 11 月刊行。

* 所属研究機関における電子形式での掲載：
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/58803/1/01_Eguchi.pdf

4 江口 豊 (単著) 「駅逓制度と新聞成立の関連について」『メディア・コミュニケーション研究』第 68 号, 57-77. 所収、2015 年 3 月刊行。

* 所属研究機関における電子形式での掲載：
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/58522/1/03_Eguchi.pdf

〔学会発表〕(計 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

江口 豊 (EGUCHI YUTAKA)

北海道大学大学院 メディア・コミュニケーション研究院・教授

研究者番号：70203627

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：